

館林市つつじが岡公園ガイド

ツツジの育て方 一般的なツツジの肥培管理

植え付け

3月下旬から入梅時期、または9月下旬から10月が適期です。日当たりと水はけのよい場所を選び植えつけます。

アルカリ性の土壌、連作を嫌いますので、そのような場所に植える場合は土の入れ替えを行いましょう。根鉢の2倍の直径、深さの穴を掘り、元肥として腐葉土やピートモスを植え土に混合し、根鉢を1/3ほどくずして植えつけます。つつじの根は地表近くに張るため、深植えは厳禁です。根腐れの原因となります。

鉢植えの場合は赤玉土をベースに鹿沼土、腐葉土、ピートモス等を混合した用土で植えつけます。植え替えは2年に1回を目安に行いましょう。置き場所は通年戸外で、夏は半日陰、その他の時期は日当たりのよい場所に置きます。冬は乾燥した風があたらない場所に移動します。

水やり

地植えの場合は、一度根づいてしまえば、夏場の極端に乾燥する時期以外は自然雨だけで十分です。

鉢植えの場合は、夏は朝と夕方、春と秋は1~2日に1回程度、冬は乾燥したら水やりします。

施肥

肥料は真冬に寒肥、花後にお礼肥、秋に追肥として、緩効性の化学肥料や油粕などを施します。

ツツジは根が浅いので、肥料焼けを防ぐため株元から離れた場所に施肥しましょう。

枝の張っている範囲の外周部あたりが目安です。

剪定

ツツジの花芽は前年の夏に作られますので、剪定は開花後なるべく早い時期、6月上旬までに行いましょう。夏以降に剪定すると、翌年花が咲かない原因になります。

ツツジは枝数が多く、芽吹きもよいため、刈り込むこともできます。この時に枯れ枝や重くなった枝も基部から剪定し風通しを良くしましょう。

切られた枝からは複数の芽が伸び、こんもりとした樹形となります。

殖やし方

挿木で比較的簡単に増やすことができます。

6～7月頃、充実して堅くなった新梢を、長さ10cmほどで切り取ります。先端の葉2～3枚を残して、1時間ほど水揚げをし、鹿沼土（小粒）や、さし木用土に葉が触れる程度の間隔で挿します。風が当たらない日陰で乾かさないように管理すれば、秋には発根します。

病害虫

特に注意が必要なのは、ほとんどがベニモンアオリンガの幼虫（芯喰い虫）による、新芽やつぼみの食害によるものです。

つぼみは膨らむのに途中で枯れる。新芽が茶色くなる。触るとパラパラ落ちるなどの症状が見られる場合は、芽や蕾の内部にベニモンアオリンガの幼虫が侵入し、食害したあとです。よく観察すると、針で刺したような小さな穴が見られるでしょう。

6月～10月に殺虫剤を散布し防除しましょう。